

川崎町 川崎町立川崎第二小学校(総合的な学習の時間) 「藍染め・綿繰り体験」

○市町名 川崎町

○学校名 川崎町立川崎第二小学校

○期 日 令和6年9月10日(火)

○内 容

総合的な学習の時間(第3・4学年)

「藍染め・綿繰り体験」

- ・藍の栽培や藍染め、綿繰りの実体験を通して、児童が地域に根付いた伝統技術の存在に気づき、興味を持ちながら理解を深めることができる。

○講 師

森の美術館 木ノ瀬 千晶 氏

○指導補助

森の美術館 佐藤 大史 氏、門脇 菜摘 氏



○児童の声

- ・今日、藍染めをして思ったことは4つあります。1つ目は藍の葉っぱです。布に藍の葉をとんとんすると、その布に藍の葉の形がつくんです。私はそれに驚きました。家で藍を育てたいと思いました。2つ目は綿のことです。綿の中から種が出てくるなんて思ってもいませんでした。綿の中から種を分ける道具もあるんだなと思いました。その綿をもっとやわらかくして行って、はた織り機で綿の糸にできるということを初めて知りました。3つ目ははた織り機です。はた織り機で綿をやわらかくして糸になるんだなと思いました。4つ目はお礼の言葉です。私たちのために、この学校に来てくれてありがとうございます。今日はとても楽しかったです。

(3年 鈴木 萌々さん)



- ・今日は初めて大きな鎌を使って藍を切って収穫しました。藍はまた最初からなるのかなと思いました。その後に藍のたたき染めをして少し難しかったけど、後からトンカチでたたいているうちに慣れて楽しくなりました。水にぬらしても藍の色は変わりませんでした。けど、エコバックができたので良かったです。その後に、へんな機械みたいので種を取り出すのがおもしろかったです。弓みたいな道具はどう使うのか気になりました。糸がどうできるのかも気になります。今日はありがとうございました。(3年 應本 脩斗さん)

- ・藍の葉っぱのまわりの雑草を取るときに道具を使いました。雑草が取りやすかったです。その後にたたき染めをしました。葉っぱを好きなように置いてテープで押さえて、たたきました。表も裏もやって水で洗いました。全然青くならなかったです。その後、綿をコットンと種を分けました。そのときに機械を使ってやりました。その綿をもっとふわふわにするために、他にもいろんな道具を使いました。弓みたいなものもありました。その後、綿を道具を使って糸にする作業をしました。でも、全然糸にはならなくて、脩斗くん「手をはなしてみたら」と言われて手をはなしたらすごくとびました。その後に綿の種をもらいました。家で育てていっぱい綿を作りたいです。楽しかったです。またやりたいです。

(4年 大宮 新菜さん)



・今日は初めて藍のたたき染めをして楽しいから家でもやりたいなと思いました。青くなるのが楽しみです。今日初めて Cotton の存在に気付いて、初めて触ったらすごくふわふわしていました。ぐるぐる回す道具がいっぱいで、いっぱい綿が出てきて、(わあ、すごい)と思いました。弓みたいなのを使ったら更にふわふわになって、こんな道具があったんだと思いました。糸をつくる道具で糸をつくるのが見たかったです。種をもらったので育てて糸をつくってみたいです。後、Cotton の黄色い所がなんなのかを知りたいです。

(4年 木村 眞生さん)

○講師から

子供たちは5月に種を撒いて、日々藍のお世話をしました。夏に雑草と間違われて刈られてしまった藍がたくましく再生する様子や、一度枯れかけた藍が元気に復活するまでの様子をみんなで体験してきました。そして、その藍の葉っぱの色を布にうつしてみたことで、身近な植物に対する新しい見方が一つ加わってくれていれば嬉しく思います。

昔は自分たちの衣服は自分たちで染めていたり織ったりして作っていたこと、その材料も畑で育てたものや野山にあるものでできていたことのお話を子供たちは熱心に聞いてくれました。

「自分たちが着ている服は、一体何からできているのか」

一番初めのところまで思いを馳せることが

今はほとんどなくなっていました。なぜ水道の蛇口をひねると水が出るのか？ということと同じように、ものごとの成り立ちから知ることは、生きていく上での大切な知恵となり、大きな力となるものです。

色を付けるために植物を育ててみて、子供たちはどんなことを感じたのでしょうか。実際にその色をどんなふうに見たのでしょうか。

今回の体験が何かしらでも子供たちの中に残るものであったなら、私のお役目は果たせたのかなと思います。そうであることを祈って。子供たちが持ち帰った綿の種、花の後に取れるであろう藍の種から、たくさんの芽が出ますように。

(木ノ瀬 千晶 氏)



○教職員の声

5月の藍の種まきから9月の収穫まで、手厚いご指導・ご支援をいただきました。技術面のご支援に加え、藍染めの基本的な栽培方法・歴史・伝統的な染色法などについても詳しく教えていただいたおかげで、児童たちは大変意欲的に活動に取り組むことができました。講師の先生方の「デジタル技術が発展した便利な時代だからこそ実体験を大切にしてほしい、本物に触れる体験から多くのことを学んでほしい」という熱い思いが活動を通してひしひしと伝わってきました。このことは、キャリア教育の面でも児童にとって非常に良い刺激になったことと思います。毎回の活動では、子供たちの新鮮な驚きや感動の表情が見られました。ありがとうございました。(担当 須藤 裕子先生)

○教育事務所から

自分で育てた藍だからこそ、より深く子供たちの心に残る貴重な体験になったと思います。